

二、陸奥津軽弘前極印銀(3)

付 陸奥津軽弘前寶字極印銀

吉備古泉協会(津山支部)

眞銀吹 池上 宥昭

三、弘前藩鑄造の極印銀の現存事例

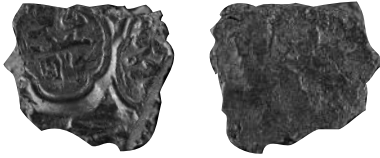
ここまで、弘前藩における極印銀の鑄造について、領内の鉱山と極印銀鑄造に関する史料を挙げたが、他の領国銀と同様に通用停止となつて久しく、現存事例については数えるほどしかない。また、『弘前藩庁日記(御国日記)』に記

録され、『諸国灰吹銀窰』にも極印図が掲載される陸奥津軽尾太極印銀については、現在までのところ未発見のものとなっている。

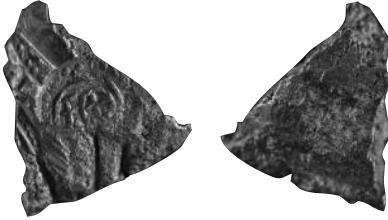
現在、弘前藩鑄造の極印銀で最も著名な現存事例は、木瓜杵に「弘前」の極印をもつ陸奥津軽弘前極印銀と、丸杵円点に「寶」の極印をもつ陸奥津軽弘前寶字極印銀であり、いずれも造

幣博物館に所蔵されている。このたび、本稿執筆にあたって書信館出版を通じて、現存事例の画像掲載の許可をいただいたので、他の事例とともに考察を行っていくものとした。

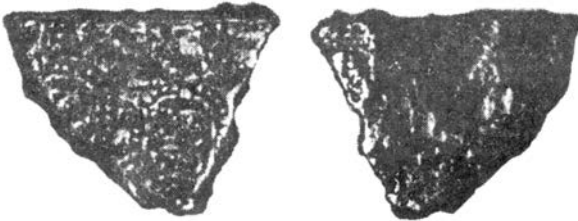
このほか、『日本貨幣図史』に「宝字切銀」として所収されるものなかで、陸奥津軽弘前



陸奥津軽弘前極印銀 24.2 g
提供：独立行政法人造幣局

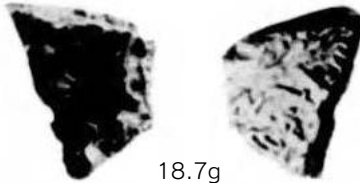


陸奥津軽弘前寶字極印銀
提供：独立行政法人造幣局



陸奥弘前寶字極印銀 35 g
『日本貨幣図史』所収

【図③】現存事例



18.7g



14.4g

【図④】『増訂日本貨幣史』

寶字極印銀の一種とみられるものがあり、平成一八年(二〇〇六)の第一七回東京国際コイン・コンヴェンションの販売目録のなかで「津軽寶極印」として掲載されている。

また、塚本豊次郎氏の『増訂日本貨幣史』には「奥州津軽弘前切銀」として、造幣局所蔵の弘前極印銀お